

事例5-7

取組名	南栗町会防災情報全戸ネットワーク構築事業		
町会名	しまだちみなみくり 島立南栗町会（島立地区）	町会 データ	・人 口／751 人 ・世帯数／299 世帯 ・高齢化率／31.3% ・町会加入数／209 世帯 ・常会数／8 常会 ・隣組数／24 組（班）
取組概要	○ 防災を主とした住民への一斉連絡手段として、LINE 公式アカウントを開設 ○ 防災訓練で活用するほか、防犯情報の配信等、町会からの連絡としても利用		

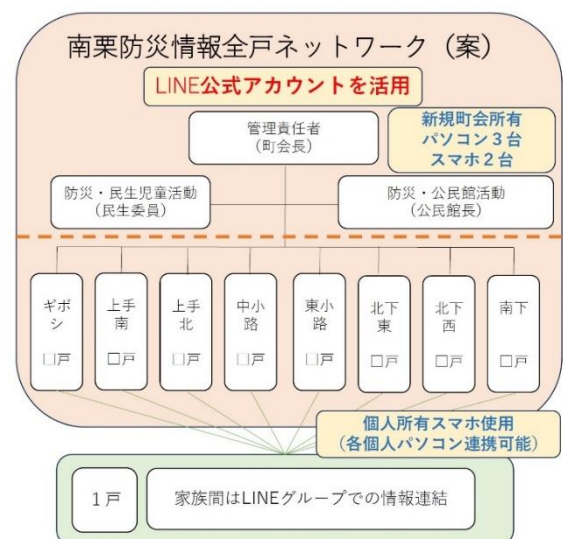
背景・課題

- ・ 近年、全国各地で地震や豪雨災害などの自然災害が頻発し、地域での見守り体制の重要性が増す中、緊急時の迅速な情報伝達や見守り活動の強化が課題となっている。
- ・ なお、当町会では、R5に松本市社会福祉協議会「ささえあいマップ」作成事業に取り組み、各常会でマップの更新や情報共有を行っている。

経過・取組内容

- ・ 町会内の情報伝達を迅速化するため、南栗防災情報全戸ネットワーク（右図参照）の構築を目指し、LINE 公式アカウントをR7.6に開設した。
- ・ ネットワークは、次に活用することとし、家族間にはグループLINEでの情報連結を促した。
 - ① 防災責任者からの全戸連絡
 - ② 安否確認、異常、救出依頼に関する連絡
 - ③ 平時や訓練での町会・公民館・民生委員からの各戸との連絡
- ・ ネットワーク管理用として、松本市地域チャレンジ応援事業補助金を活用し、町会所有のパソコン3台とスマートフォン2台を整備した。

- ・ R7の防災訓練において、LINE 登録者はチャットで「常会名・氏名・安否状況」を返信して安否確認を行ったが、返信数は56人と登録者の約5割だったことから、今後、LINEによる安否確認を定着させていくことが必要。
- ・ 一斉配信では、空き巣被害や農機具盗難被害に関する注意喚起、サルの子撃情報などを配信し、高齢者からは、感謝のメッセージが多く寄せられた。
- ・ LINE 公式アカウントは、毎月メッセージ200通まで無料のため、登録者数150人を目標に拡大していきたい。



全戸ネットワークの組織図

成果・今後の展望等

- ・ 「南栗町会公式アカウント」の登録者数は、118人となり、町会の30代から70代の合計人数477人とで比較すると、約25%の割合で利用されている。

【ポイント】

- ▼ LINE 公式アカウントを活用し、防災・防犯情報の連絡網をネットワーク化